

## 佐世保市教育委員会の自己点検および評価について

外部評価B : 木山泰寛

このたび佐世保市教育委員会がとりまとめた「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について行った点検及び評価(22年度分)」について、過去3回行われた点検・評価の流れを踏まえながら意見を述べたい。

### 1 内部評価結果（総括）について

平成22年度の内部評価によると「平成21年度の活動を省み、本市教育水準の維持向上に努め、概ねその職責を果たした。」とあるが、教育委員会の活動状況、教育委員会が管理・執行する事務、教育委員会が執行を教育長に委任する事務のいずれの項目においても、これまでの反省や指摘を生かした取り組みや改善など、佐世保市教育委員会の真摯な活動の跡が見られ、総括は適正である。

### 2 評価シート①「教育委員会の活動状況」について

#### (1)教育委員会の構成

本市の教育委員会は5名の委員から構成されているが、男女比40%、平均年齢55.0歳は、平成21年度全国平均の男女比33.2%、平均年齢59.4歳と比して適正である。

#### (2)行政が主催する行事への出席数

平成22年度の行政主催行事への出席数はのべ131人で、どの行事にも1名から4名の出席があった。またそのうち出席努力とした行事については94%の出席であり、十分職責を果たしている。

#### (3)教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議の開催状況は、開催数やのべ出席数もさることながら、会議録の内容から大変活発で充実した会議が行われてきたことが窺われる。これは、教育委員会の課題をテーマとした勉強会や、事務局を交えた情報交流・意見交換の成果であるといえる。なお、学校教育に関する課題は比較的目につきやすいものだが、社会教育が抱える課題も掘り起こしていただきたい。また、すでに取り組んでおられると思うが、勉強会での資料は事務局が提供するものだけに頼らず、委員各自での収集も必要なことであろう。

#### (4)教育委員会会議の情報公開の状況

情報公開については22年度も定例教育委員会の状況をHP上で公開しており、過去の記録と併せて直近の内容にもふれることができる。また教育委員会会議の開催予定についても期日や議事内容の提供をしており、情報公開に努めているといえよう。しかし教育委員会会議の傍聴に関しては22年度も傍聴者数が0人という状況である。開催案内のあり方について定例会議の中でも協議され、議題の集約や内容の非公開性

等様々な問題が散見されるが、今後とも傍聴しやすい環境づくりに努めると共に、教育行政に対する市民の関心を高める工夫に取り組んで欲しい。

#### (5)議会出席状況

全ての議会に委員全員が万遍なく出席している。教育は地域住民にとって身近で関心の高い分野である。地域の代表としての各議員の考え方を客観的な立場で知ることができるという点で、全委員の議会出席は大変意義あることである。

#### (6)首長との連携

21年度の文部科学省データによると、全国の市町村教育委員会の中で首長との意見交換会を年間1回開催している市町村は25.9%であり、2回以上開催の市町村が10.6%である。本市では、首長との意見交換は平成21年度に引き続き実施できている。今後も是非継続し、できれば年間2回の開催も視野に入れて欲しい。

#### (7)教育委員の自己研鑽

出席義務である教育委員会会議29回に加え、出席努力としている行政主催行事や学校訪問A・研修等、合計50回近くの会議や研修のほかに、自己判断による研鑽として40回以上もの各種研修会や行事等に積極的に取り組んでいる委員の姿勢は大きく評価できる。

#### (8)学校訪問

学校訪問は、学校教育の抱える課題・成果等に具に触れることができる好機であり、委員の出席率が増となったことは大変好ましいことである。定例会議の中でも学校訪問のあり方が熱心に協議されているが、教育委員が1日ゆっくり学校を視察できるA訪問は、全ての委員が在任中に管内の学校を一巡(研究発表校も別にA訪問をする)できるようにすることは意義のあることである。できれば昼食後に地域(民生委員や地区長・学校評議員・学校支援会議のメンバー等)との懇談や意見交換の時間がとれば、学校教育だけでなく生涯教育全般についての地域の願いや思いを聴くことができると共に、教育委員会の活動の広報にも繋がるのではないかと考える。合併による地域の拡大で学校数が増え負担も増えると思われるが、新たな地域を知る上でも重要なことと思われる。

#### (9)教育に関する外部団体等との意見交換

「生涯教育推進の観点から、例えば社会教育委員の会との連携等も視野に入れていく必要を感じている」とあるが、社会教育法では「社会教育委員は教育委員会が委嘱する。」ことになっており、さらに「社会教育関係団体に補助金を交付する場合には教育委員会は社会教育委員会議の意見を聴いて行われなければならない。」とある。

シート③「社会教育行政一般管理事業」の成果指標によると、22年度の社会教育委員会における議題数が9件であったが、社会教育委員の会を教育委員会の諮問機関として活用するなど、社会教育の充実のためにさらに生かせないだろうか。

### 3 評価シート②「教育委員会が管理・執行する事務」について

教育委員会が管理・執行する主要な事務14項目について、活動指標とする報告・検討・申出・委嘱・評価の年間件数を見ると、「その他」の項目以外で件数が多いのは「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申し出ること」の件数が22件(報告1、検討2、申出19)と最多である。これは昨年度の件数からすると6件の減とはなっているものの、予算編成に教育委員会の意見を反映できるよう会議を設定するなどの努力が窺い知れ評価できる。

### 4 評価シート③「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について

平成22年度は92の事務事業が点検評価の対象となっている。これは前年度に比べ5事務事業の増となっており、担当各課の分担についても学校教育課から教育センターへの移管など若干の見直しが行われている。

それぞれの担当課が各事業の22年度の実績を、対象・目的・手段ごとに対象 指標 ・成果指標・活動指標で表し、目標に対する実績として達成度を割り出している。そしてその結果を、妥当性・有効性・効率性・総合評価という4つの観点から考察し、23年度の事業改善に生かそうとしている。

多岐に亘る事務事業一つ一つに担当各課の真摯な取り組みの跡が見られ、事業によっては十分成果が挙がっていない事務事業もあるが、マネジメントサイクルを生かした改善に向けての取り組みは高く評価できる。

なお、事務事業の担当課別に見ると、社会教育課所管の事務事業において達成度が不十分と自己評価されたものがやや多いようである。これは対象が広範囲であったり目的が大きかったりと、事業推進の上での問題もあるのではないかと思われる。それに加え社会教育課が担当する事務事業は、各課担当の事務事業の中で最多の22事務事業に上り、負担も大きいのではないだろうか。

### 5 終わりに

このたび佐世保市教育委員会の外部評価に携わらせていただき強く感じたのは、教育委員各位をはじめ事務局や事務事業担当各課が、佐世保市教育方針実現に向けて真摯な活動を日々実践されているということである。そのことは事務局から頂いた詳細な資料の随所に表れているが、今回の評価にあたって、佐世保市と同規模の都市の教育委員会活動状況等を検索し比較した中でも、他の都市にひけをとらない素晴らしい活動状況であることが判った。これは、これまで積み上げてこられた歴代教育委員会関係各位の意志を引き継ぎ、さらに新たな課題へ向け取り組んでおられる現佐世保市教育委員会の大きな成果であると思う。変動激しい世相の中、様々な課題の続出も予想されるが、広く市民の意向を踏まえ、中立公正で安定した教育行政の推進にあたって欲しい。